

2020年4月号

霧島市

よんたもんせニュース

ハオジュブジェン

好久不見！

（お久しぶりです！）

中国の国際交流員王欣（オウキン）です。4月をもちまして、霧島市国際交流員の仕事を終えることになります。皆様には大変お世話になりました。霧島にいる一年間には、色々な出会いがあり、たくさんの思い出ができました。短い一年間でも、私の今までの人生の中で、かけがえのない、とても貴重な経験でした。今回、この場をお借りして、一年間の霧島での美しい思い出や感想をお話します。どうぞ、よろしくお願いします。o(n_n)o

綺麗な光景

霧島に来る前に、初めて自分の赴任先が霧島だと知った時、どんなイメージがあったと思いますか。濃い霧がかかっていて、海に囲まれている離島というイメージが浮かび上がりました。わくわくして、霧島に行く日を待っていました。霧島に到着の日、鹿児島空港から出た瞬間、初めて煙を噴いている桜島にびっくりしました。また、車が山の中を走っている風景など、中国の平野出身の私にとって、人生初で新鮮な光景ばかりでした。特に、毎日噴火している桜島は、夢のような光景でした。今は、遠出をした帰りに桜島を見ると、ほっとします。「桜島は、心のよりどころだなあ」との思いは、霧島の皆さんと同じでしょうか。

春の桜、夏のミヤマキリシマ、秋の紅葉、冬の氷樹、霧島の四季は綺麗ですね。その中で、一番印象に残っているのは藤の花です。去年の4月、赴任したばかりの時、和気公園に行って、満開の藤を初めて見ました。岡山県の和気町から同じ藤の苗を分けられたことをきっかけに交流を結んできた上海市嘉定区にも藤公園があります。去年の8月、霧島市長団が交流開始から15年目を迎えた嘉定区を訪問した時、嘉定区藤公園にも行きました。はかなげな花ですが、中国の国民に深い絆を結んでくれました。上海に帰ったら、ぜひ満開の藤の花を見に行き、霧島の皆さんへの思いを寄せます。



2019年4月、和気公園の藤



2019年8月、上海市嘉定区の藤公園

美味しい食

霧島の食は、何故こんなに美味しいのでしょうか。私は霧島に来てから、けっこう太ってしまいました。鹿児島黒豚、鹿児島黒牛、刺身、回転寿司など中国でめったに食べたことがありませんでしたが、今は日常よく食べるようになり、美味しくてたまらないほど好きになりました。また、甘いものが大好きな私にとって、甘口の醤油は口に合いますし、高千穂牧場のアイスクリームや焼き芋などの甘いものを食べると、本当に幸せな気持ちになります。霧島を離れてから、きっと懐かしく思うのでしょう。

霧島でたくさんの店に行き、日中飲食文化の違いを実感できました。温かいものが体にいいとの認識を持つ中国人の私にとって、一番びっくりしたことは、どんな店でも、どんな寒い時期でも、お冷を提供します。また、中国では餃子は主食として食べるということに、日本人の方もびっくりしていました。3月に中国国際料理キッチンを開催し、霧島市民と一緒に、中国の本場の水餃子を作りました。その餃子は私の母の特製のレシピでした。

素敵な料理キッチンをするため、前もって中国にいる母とビデオチャットで、たくさん練習をしました。講座の時、母は色々心配をしてくれ、私より緊張していました。母は「何かあったら、ビデオチャットで連絡してね」とずっとスマートフォンを持って待っていてくれました。最後には、日本の食材だけを使っても、中国本場の味と変わらない美味しい水餃子が出来上がりました！家族の味を皆さんに伝えられたのは何より満足しました。料理を作るのが苦手な私は今でもほとんど料理を作らないですが、母と一緒にレシピを繰り返して直したりしているうちに、自己鍛錬ができました。そして、母が家族のために常々している料理や家事の苦労も実感できました。中国に帰ってから、霧島で成長できた姿を母に見せたいです。



国際料理キッチンの個性がある水餃子



実家で水餃子を作っている母

豊かな祭りイベント

春のお田植え祭、夏の国分夏祭り、秋の隼人浜下り、冬の初午祭……霧島に来てから、たくさんのイベントに参加しました。イベントを通じ、色々な体験をして、短い一年間ですが、魅力的な霧島を知れば知るほどさらに好きになりました。

イベントの中で、私が一番好きなのは7月の国分夏祭りです。職場の同僚と一緒に浴衣を着て、音楽に合わせて踊りました。初めて日本の踊りを体験しましたが、意外と踊りやすく、楽しかったです。その日、雨が降ったり、止んだりしていましたが、雨のお蔭で、夏の祭りという雰囲気が盛り上がりました。次の日、勇猛果敢な国分寺御興競走を見ました。とても激しくて、緊迫感に溢れていました。夏祭り、花火、かき氷、浴衣、この夏は、忘れられない思い出となりました！

この一年間、市の主催したイベントの他、お茶の稽古も体験しました。細かい動作まで注意しますので、思ったより難しかったです。一年間経った今でも、まだ慣れてないですが、最初に正座さえ出来なかった時と比べてよくなった気がします。お茶の体験によって、日本文化をもっと理解できました。また、「一期一会」という茶道の言葉を思い出しました。「茶会は常に人生で一度きりのものと心得て、相手に対する精一杯の誠意を尽くさなければならない」という意味です。お茶だけではなく、「人と人との出会いは一度限りの大切なもの」という「一期一会」の考えは、霧島に来てからもっと実感できました。いつも優しい目で見守っていただいた方々に、心より感謝します。これからの出会いも大切にしていきたいです。



春のお田植え祭



秋の隼人浜下り



夏の国分夏祭り



お茶のイベント



美しい霧島の人

短い一年間の中で、私は最初、霧島って聞いたことがなかったですが、今では誇りを持って霧島について話せるようになりました。いつも、霧島の美しさを探しています。美景、美食など、霧島の美しさは数えきれないほど多いですね。でも、その中で、一番感動しているのは、美しい心を持っている霧島の皆さんです。

初めて鹿児島を降りてから、「霧島へようこそ」のウェルカムボードをもって出迎えた職場の同僚をはじめ、霧島の皆さんの優しさや暖かさをいっぱい感じる事ができました。職場でたくさんの方が支えてくださいました。自由にイベントを考え、企画できるのはありがたいです。また、私の講座に参加していただいた霧島の皆さんにも感謝しています。私の中国語教室に参加している88歳の方はいつも真面目に中国語を勉強していて、その態度と姿勢は感動させられます。

中国の都会の生活に慣れた私から見て、霧島市は大きくない都市です。でも、そのような霧島で、私の心は、前よりだいぶ広くなりました。国際交流員として、私はただ中国のことを霧島の皆さんに伝えるだけではなく、日本、アメリカ、韓国、様々な文化も体験できました。さらに、国際交流の仲間と働いて、日本人の同僚をはじめ、アメリカや韓国の国際交流員と一緒に仕事をする事によって、国や文化を超えて、人間としての美しさを実感できました。それは、霧島にいたからこそ、学ぶことができました。これから、霧島で学んだことを忘れずに、ずっと感謝の気持ちをもって精進いたします。

先週、私の最後の公民館講座「中国国際交流員とお別れ交流会」で、日本人の参加者から「住めば都」という日本のことわざを教えていただきました。確かに、その通りです。霧島は私にとって、第二の故郷の大切な都市です。国際交流員の任期が終わっても、霧島から離れても、私の心はずっと霧島の皆さんと一緒にあります。これからも霧島と中国の架け橋として、頑張りたいと思います。

魅力的な自然と心温かい人々に恵まれている霧島市、ありがとうございました！皆様の更なるご活躍とご健康を祈りながら、次に会う日を楽しみにしております！



赴任の時、鹿児島空港で出迎えてくれた職場の皆さん



いつも私の講座に参加していただいた皆さん



いつも支えていただいた職場の皆さん



アメリカ・韓国の国際交流員

この一年間、本当に、あいごとさげました！

発行：霧島市役所市民活動推進課市民環境政策・国際交流グループ 連絡先：64-0924 国際交流員